

## 第 202 回 地震予知連絡会 重点検討課題

タイトル「地震・津波即時予測とリアルタイムモニタリング」

趣旨説明者 気象庁 土井恵治

近年の地震学と計算機科学の発展、観測機器及び通信技術の飛躍的向上によって、地震の発生状況が詳細かつ即時に把握できるようになり、その結果、発生した地震の情報を迅速に発表できるようになった。また、地震が発生したことをいち早くとらえられれば原理的に可能であると 100 年以上前から指摘されていた地震動や津波の予測は、わが国では緊急地震速報や津波警報という形で実現している。これらは放送・通信メディアの協力により即座に個人に届けられており、世界でも類を見ない情報提供が日常的になされている。

地震動、津波の予測は、現状では地震波を観測した直後に速やかに震源を推定した結果に基づいて行っている。また、観測データを逐次予測モデルに同化して予測の精度を高める手法も開発されつつある。いずれにしても受け手の対応行動の猶予時間をできるだけ稼ぐという観点から震源の推定は即時的、自動的に行われる必要があり、観測、データ処理のためのシステム全体がいつときも滞ることなく動作する状態にしておくことが必要である。

今回の重点検討課題においては、地震・津波の即時予測に関し、以下のようなリアルタイムモニタリングによる震源や波動場の即時推定や処理手法・システムの現状を紹介するとともに今後の技術開発を展望する。

話題提供者は未定

1. リアルタイムモニタリングシステムの構築
2. 波動場の把握に基づく地震動の予測
3. 強震モニタリングシステムー防災科学技術研究所の例ー
4. 津波予測の技術
5. GNSS 変位データを用いた即時地震規模推定
6. 地震動・津波予測の利活用
7. 総合討論